

産学連携本部

第23回科学技術交流フォーラム「有機材料・有機デバイスでフロンティアを切り拓く」開催

本学が生み出す新しい材料や技術が、日本の再興にどのように役立つか議論を深めようと、第23回科学技術交流フォーラム「有機材料・有機デバイスでフロンティアを切り拓く—革新的エネルギー・環境、医療イノベーションを創造—」を11月29日、武田ホールで開催した。学外・学内から約150名が参加し、今後の日本における最重点産業分野であるエネルギー・環境、医療への応用が期待される有機材料・有機デバイスについて、第一線で活躍する学内研究者から最先端の研究報告を聞いた。

冒頭、保立和夫産学連携本部長が、「有機材料は多様性に富み、資源循環や再生可能エネルギー利用、医療応用などに適した材料や新機能が次々と創出されている。その活用について、産業界の方々と議論を深めていきたい」と挨拶した。

基調講演では「環動高分子の基礎と自己修復性材料への応用」と題し、新領域創成科学研究科 伊藤耕三教授が有機材料・環動高分子材料の特徴や、応用展開について講演した。続いて、生産技術研究所の吉江尚子教授は修復性ポリマー等の環境高分子材料、工学系研究科の鄭雄一教授は網目構造制御による高強度ゲル、関谷毅准教授は有機エレクトロニクスの最新研究成果を報告した。後半、工学系研究科の加藤隆史教授は液晶の新しい展開、相田卓三教授は環境に優しいアクアマテリアル、先端科学技術研究センターの瀬川浩司教授はエネルギーデバイスとしての有機系太陽電池に関する研究成果を講演した。

最後に、松本洋一郎理事・副学長および渡部俊也産学連携本部副本部長が、「課題解決先進国である日本が得意とする研究テーマとして、無限の可能性を秘めた有機化学があります。この技術の可能性を実用性に向け早期に転換するために、産業界との連携をさらに強化して世界に発信したい」と締めくくった。本フォーラムを契機に、日本再興へ向けた産学連携活動の展開が期待される。



挨拶する保立和夫産学連携本部長



講演会では最先端の研究報告が行われた



挨拶する松本洋一郎理事・副学長